

IEEE 活動を通して得られたこと

私は IEEE 活動を通して、通常では得られないであろう貴重な経験や、自分を見つめなおすきっかけを得た。本稿では、時系列に沿った私と IEEE との関係および自身の変化について記す。

私と IEEE との出会いは大学3年生の冬であった。研究室に配属され、先生をはじめ諸先輩方から、将来を鑑みて何らかの学会へ加入することを勧められたからである。当時の私にとっての IEEE とは、コンピュータ通信の規格として名前を知るのみで団体としての全容は知る由もなかったが、様々な資料を見るにつれて、その権威の高さと規模の大きさに感嘆したのを記憶している。また、私の大学には当時 IEEE 東京支部 Chair であった原島学長、IEEE Region10 Director の竹内教授が在籍していると知ったのもこの時期である。

入会当初は特に活動を行っていなかったが、4年生になるとメールマガジンを通して知った東京支部や各大学学生支部主催のイベントへ参加するようになった。ここで私にとって1つめの大きな変化が起きた。それは、各大学学生会員の熱心さに驚嘆したことである。特に、東京工業大学 IEEE 学生支部主催の Workshop へ参加した際に感じた印象は当時の私にとって強烈であった。同年代の学生達がテーマを決め、主催者となって Workshop を運営していた事実を目の当たりにして、意識さえ持ち続ければ我々学生でも何か事を起こせると実感した。我々の大学にも IEEE 学生支部を設立し、こういった学生活動に参加しようと考え始めるよいきっかけとなった。

大学院へ進学後、私は仲間を募って学生支部の設立申請を行った。前述の経験が背中を押してくれたと考えている。学生支部を設立したことにより、ときには主催者として、ときには協賛者としてより多くの活動を展開することができた。企業の見学会や学内の研究発表会での表彰などを会員同志力を合わせて行った。ただ漠然と学生生活を送っていた場合には決して得られない経験だったと思う。また学生支部設立申請と時を同じくして、2つめの大きな変化が起きた。竹内教授より IEEE Region 10 学生代表のポストを拝領したことである。私が竹内教授の講義を受講していた時期と学生代表のポストが空席になった時期が重なり、講義後に IEEE に関する話をよく拝聴していた私に白羽の矢が立った様である。以降2年間、Region 10 理事会および Region 10 meeting、IEEE 本部 Student Activities Committee 会議への参加、国際視察団としての中国歴訪、海外の学生大会への参加等様々な国際経験を積ませて頂いた。国内では IEEE Japan Council が主催する Student Leadership Training Workshop をはじめとした各学生活動へ、Region 10 学生代表と当大学学生支部の代表として参加してきた。この活動を通して同年代の学生たちの積極性や、IEEE という団体を通じてキャリアを構築しようという目標意識の高さに触れることができた。何よりも、多くの友人達ができることが何よりの大切な財産であることは言うまでもない。学生同士の交流にとどまらず、産業界・大学でご活躍中の諸先生方と時間を共にし、議論する機会を与えられたことも非常に有意義な経験である。この時期に得られた経験が、私自身のキャリア構築の方向性を決定するに際して最も大きな影響を与えたと思う。

こうして私は現在に至るまで、IEEE 活動を通して様々な人々と様々な土地で接することにより、自分の目標意識や物事に対して一步を踏み出すことの重要性、新たな人脈形成といった財産達を得てきた。それらは自分自身が日々成長することの必要性を常に感じさせるものであり、今後の人生において、何事にも常にチャレンジ精神を持って取り組もうという意識を芽生えさせてくれたものである。